

第43回日本剣道少年団研修会<体験・実践>講評

審査委員長 平井克彦

今回は新型コロナウイルス感染防止の観点から、例年と異なって発表会を行わず、作文の内容だけで審査を行いました。

これまで審査は作文の内容、表現力、姿勢を総合的に評価して順位を決めてきました。まず、事前に作文を採点して、発表者の表現力や姿勢を加点して合計点を出して、順位を決める方法を採用してきました。小学生も中学生も9名の同じくらいの学年の方が書いた作文を1点違いに採点して順位をつけることは難しいことです。当然、同点という作文も多数出てきます。これまでは作文が同点であっても、表現力や姿勢をプラスして総合点で順位を決めてきました。

今回はそのような方法が採れません。同点のものはそれらを何度も比較して仮の順位を付けて、さらに読み直して、順位を修正したり、確認したりして、最終的に順位を決めました。同点に近い作文に順位を付けることは大変です。

作文の内容についてみると、小学生の作文は半数以上の方がコロナに関わる話について、複数の方がキャプテンになった話について書いています。中学生の作文も半数近くがコロナについて、複数の方が身近な人の死について、さらに複数の方が感謝する気持ちについて書いています。どの作文も<体験・実践>の発表という趣旨に沿って体験したこと、実践していることについて書いています。この点、非常に良かったと思います。

作文の中にはこの一言を削除した方が良かったとか、この2～3行を書かない方が良かったかなと思えるものもありました。しかし、内容によって判断しました。

作文の評価は同じ題材を扱っていてもその扱い方によって大きく変わります。評価は他の人が経験していないユニークな<体験・実践>のものが高くなりました。作文の内容が自分では素晴らしい<体験・実践>だと思えるものでも、それが他の人が当たり前に行っている<体験・実践>では高い評価になりません。この年齢でこんな凄い<体験・実践>をしているのか、こんな素晴らしい考え方をしているのか、と読む者を感動させるような作文が高い評価を得ました。

作文だけの審査ですので、上記のような考え方で順位を付けさせていただきました。